

第20回原子力委員会臨時会議議事録

1. 日 時 2012年5月25日（金） 16:00～16:30

2. 場 所 中央合同庁舎4号館10階 1015会議室

3. 出席者 原子力委員会

近藤委員長、鈴木委員長代理、秋庭委員、大庭委員、尾本委員

内閣府

吉野企画官

4. 議 題

（1）原子力発電・核燃料サイクル技術等検討小委員会の報告書取りまとめに関する報道について

（2）その他

5. 配付資料

（1）原子力発電・核燃料サイクル技術等検討小委員会の報告書取りまとめに関する報道について（見解）

6. 審議事項

（近藤委員長）それでは、第20回の原子力委員会臨時会議を開催させていただきます。

先生方、ご予定があるところ突然お呼び立てしまして申し訳ございませんでした。

本日の議題は、原子力発電・核燃料サイクル技術等検討小委員会の報告書取りまとめに関する報道について、でございます。さまざまな報道がなされているところ、私どもとして事実関係等についての説明をきちんとしておいたほうがいいかと思ひまして、事務取扱に関するものであればプレスリリースを出すことでいいんですが、委員会に関わることでございますので、皆さんにお集まりいただいて見解等を取りまとめて公表するべきと。勿論、緊急の場合には委員長談話という手段もありますが、今回はお揃いいただけることになりましたので、ここでこのことについての委員会としての見解をご審議いただいてとりまと

めることに致しました。

お手元に配布の原案は、先ほどまで皆さんにメールを送ってご意見をいただいたところをとりまとめたものです。まずはこれを事務局から読み上げていただいて、ご審議いただければと思います。事務局、よろしくお願いいたします。

(吉野企画官) それでは、皆様のお手元に資料第1号としてお配りしております本日の資料を読み上げさせていただきます。

原子力発電・核燃料サイクル技術等検討小委員会の
報告書とりまとめに関する報道について（見解）
（案）

平成24年5月25日

原子力委員会

2012年5月24日付毎日新聞朝刊記事「秘密会議で評価書き換え」等、一連の報道で、原子力委員会が事業者を含めた会議を開き、再処理に有利に報告書原案を書き換えた、などの報道がありました。これにつきまして、原子力委員会として、事実関係を説明します。

まず、事業者を含めた会合を開催していたことは事実ですが、事業者の意見を反映して報告書を書き換えたという事実はありません。この会合は、検討小委の資料準備のための作業連絡を目的として開かれてきたもので、核燃料サイクル諸量や所要費用の計算手法やデータの提出依頼・確認、資料の記述の技術的正確性の確認などを行ってきました。その会合に、関連行政機関に加え、データの提出や計算を依頼している事業者の方も参加していたことは事実で、検討小委を設置して以来20回以上開催し、このような作業を行ってきました。4月24日で依頼してきた定量評価の作業が終了しましたので、この会合はその後開催されていません。

4月24日の会合に提出した資料の中に、「総合評価案」と題するものが含まれていたのは事実ですが、これはその後何度か用意された原案の一つです。実際、4月24日の会合の後、小委員会の委員のご意見を踏まえて改めて別の原案が作成・修正された上で会議に提出されました。その経過は以下の通りです。

4月27日の検討小委で座長は、5月8日の会合にむけて、「総合評価案」作成のための意見書を5月2日までに提出するよう各委員に依頼しました。その意見書を踏まえて、座長は原案を作成し、会合前の5月7日に小委員会委員にそれを配布し、コメントをいただき、最終原

案を5月8日の小委員会に提出しました。

5月8日の会議（公開）では、提出された最終原案の審議が行われ、その後、座長は委員各位のご意見をできるだけ反映した最終報告書案を作成し、全委員に修正内容を確認しています。また、この作業は5月16日の会議の後にも行っています。したがって、この検討小委員会の報告書を、「特定の事業者や立場に有利なように書き換えた」ということは事実無根です。

原子力委員会としては、小委員会座長は委員会の公正な運営に最大限尽くしてきたと認識していますので、このように報告書が書き換えられたとの報道がなされることは極めて遺憾です。ただ、素案とはいえ、報告書案と受け止められるものが外部の事業者や関係者に配布されたことが、このような疑念を招いたことを反省し、今後、関係行政機関以外との情報提供や資料送付について担当原子力委員が指示・確認を行うなど、情報管理や作業依頼に係る会合の運営を改善していくこととします。

以上でございます。

（近藤委員長）ありがとうございました。これについてはいかがでございましょうか。ご意見をお願いいたします。

（鈴木委員長代理）この文面のとおりですけれども、私は検討小委の座長でしたので、2点だけ申し上げます。まず、この件で、小委の座長として深く責任を感じております。今回、検討小委の委員の皆様を初め、報告書の作成に関わってくださった方々とか、これまで検討小委の議論を信頼して参考にしていただいた方々に、大変ご迷惑をおかけしたと思って深くお詫びを申し上げます。特に、作業の打ち合わせ会合とはいえ、疑念を持たれるような資料配布をしたことについては、深く反省し、ここに書かれていますように今後改善していくということで、全力を尽くしていきたいと思っております。

第2に、一方で、検討小委の報告書策定過程で、事業者などの意見を反映して有利なように書き換えということは全くありません。私は委員の皆様のご意見を踏まえ、できるだけ公正な運営に最大限尽くしてまいりました。その事実は正しく伝えていただきたいと思います、この見解文に思いを込めました。以上でございます。

（近藤委員長）秋庭委員。

（秋庭委員）私は専門家ではありませんので、勉強のためにこの勉強会に出席しておりました。ただし、4月24日は所用があり出席していませんでした。出席していたのは、この勉強会はコスト計算など作業のための作業会合であると常に認識していました。ですから、このたびの報道のように、事業者の意見で報告書を書き換えるようなことはなかったと思っております。

ます。ただ、疑惑を持たれるような会合を開催していたということは反省すべきだと思っております。常に透明性は大変重要なことであり、このような作業チームがあることをしっかりとお伝えしておけばよかったと反省しております。

ただ、報告書の内容については、公開で行われている小委員会開催ごとに委員の皆様にご意見を伺い、それを反映し、さらにそれを委員にお送りしてご確認いただくことを積み重ねており、最終案についても委員から提出されたご意見をもとに一つずつ確認していることは周知の事実でございます。ですから、最終の総合評価については6人の委員の方々のご意見であることは間違いのないと思っております。以上です。

(近藤委員長) 大庭委員。

(大庭委員) 原子力委員会として、このような疑念を持たれる会合を開いたことについては深く反省すべきだと私も考えています。ただ、一方で、今、秋庭委員からもお話がありましたが、私も検討小委には参加しておりましたけれども、そのときの公開の場での議論を十二分に反映した形で報告書を取りまとめたとも私も理解しております。よって、一部の事業者、あるいは電力関係者からの意見を取り入れて、そして書き換えたという事実はないと認識しております。しかしながら繰り返しになりますけれども、疑念を持たれるような会合を公開せずに開いたということにつきましては反省すべきだと考えています。以上です。

(近藤委員長) 尾本委員。

(尾本委員) 3点ほどあるんですが、まず小委のための資料を用意するにあたって、使用済燃料に関するデータとか、あるいはシナリオに応じたモデル計算の結果とか、こういったものが必要になるわけで、そのために事業者からデータをもらう、あるいは研究組織からモデル計算結果をもらう、こういった作業が必要なのは当然で、ただしその過程の中で、報告書の素案が流されたという事実があるとすれば、それはやはり問題であろうと思っています。ただし、仮にそうであったとしても、その場合の事業者側の意見が反映されたものであるか否かについては先ほど鈴木委員の言われたとおりであると思います。私自身は4月24日の会には参加しておりませんが、しかし鈴木委員を信頼しておりますし、鈴木委員が常々電気事業者に対して、かなり厳しい姿勢をお持ちであるということも十分承知しておりますので、反映ということはないものと考えています。さらに、既に秋庭委員もおっしゃったとおり、実際の小委の結論というのは皆さんの意見、小委の場での6人の意見を反映した形で行われているのが実情であります。

それから、3点目に、やはりこういうことが今後ないように、しかるべきルール、運営の

仕組みづくりというのをきちんとやるべきであるという点においては皆さん既におっしゃったとおりであると思います。具体的には例えば出向者に関しては、その出向元の利益のために働くということを厳禁する。それから、情報を流すことも当然禁止する。こういったことを書きもので明確にして、そしてそれに違反した場合には、やめさせられることも十分あると。こういったルールづくりということが今後具体的な形で示されて再発がないようにするということが信頼を獲得していく上で重要であると思っております。以上です。

(近藤委員長) ありがとうございます。この委員会の運営に関しては、私に総責任がありますので、本件についても作業チームに不行き届きな点があったことは私に責任があります。私は、今回の検討小委に必要な技術的説明資料の準備や経済性その他の諸量の計算について、それをお持ちの関係組織のご支援を仰ぐべしとしました。私どもの持っている人的資源からすると、こんな短い時間でアウトプットを出していくとすると、彼らに依存せざるを得ないのかなという判断でお集まりいただいて持っている能力を確認し、作業内容を共有し、ご助力をお願いしたのです。ただ、そういう形でお仕事をお願いするに際しては、作業規範や情報管理の在り方についても申し上げる、お願いしますだけではなくて、そういう振る舞いに係るリクワイアメントをきちんとしてお話をすべきであった、作業は持ち回りで行うべしとすることもできたのにそれを行わなかったことを、深く反省しています。

それから、もう一つは、いまになって遅いのですが、仕事の仕方として本来的にはどういふのがいいかなと考えるんですけども、いわゆるシンクタンクとかそういうことを専門的に作業できるようなところに、技術小委でそういうところへの発注仕様書を承認して、出てきたものを受け取って議論する、そういうやり方に変えていかなきゃならないと思うわけですけども、それにはそういう能力のある組織を日ごろから養成しておかなければならない。でも、今回について言えば、昨年段階で、この役をJAEAに頼ったのです。それは原子力委員会のために働いていただくことについて、JAEAの設立時にミッションの一つにすることをお願いをしたからです。で、そこに電事連からのデータを入れて作業していただいたわけですが、そういうことについても今後どうしていくべきか。こういうことも、今後原子力委員会のあり方を検討するなかで、検討していくべきかと思っているところです。

そこに、今後情報管理や作業依頼に関わる会合の運営を改善していくとありますけれども、具体的にどう改善するかについては、今申し上げたように、今後こんな作業をするべきかということが肝心と思うのですが、どうしても関係組織の皆様にお手伝い頂きながら作業をしなければならないことがあるかもしれない。ですから、こういうところについて皆さんと相

談して、きちんとしたルールを定めたいということです。

それから、尾本委員のおっしゃった出向者の件、この見解では触れていないんですけれども、すでに新大綱策定会議でなんとか指摘され、前回の策定会議でこれについては早期に対応しますと申し上げたところです。我々の所掌事務をきちんと行うためには、適切なリソースを確保しなければならないのですが、きちんとということのなかには、会議の運営においてプライオリティを置くべきは透明性、公正性に疑念を持たれないということが最優先としてあるので、そのことを果たせるように、しかるべき手を打っていくことをお約束したつもりです。ですから、その点にはついては、この紙で触れなくてよろしいですね。

以上、私のほうから少し補足させていただきました。皆さんの方で何か追加しておっしゃりたいことがありましたら、どうぞ。なければ、これを私どもの見解とすることによってよろしくうございますか。

（「はい」と言う者あり）

（近藤委員長）それではそのように決定させていただきます。ありがとうございました。

その他議題、何か事務局ありますか。

（吉野企画官）その他議題でございます。次回のご案内でございます。第21回定例会につきましては、5月29日火曜日の14時、4号館の通常と違いまして、4階443会議室で行います。皆様、ご承知おきください。

なお、この後、この場にてプレスの皆様方の質疑を行いますので、関係者の皆様方は係員の指示にお従ってください。以上でございます。

（近藤委員長）何かございますか。それではきょうはこれで終わります。ありがとうございました。

—了—